

9月のがん征圧月間における活動について

日本のがん検診受診率が世界の先進国に比べかなり低いことを受け、9月の『がん征圧月間』に私たちは、中野区がん検診の普及啓発及び受診率向上に関する協定の一環で参加致しました。内容は、中野区役所内における、『がんを知るパネル展』や『顕微鏡による細胞観察』です。がんやがん細胞に関するパネルを1ヶ月間に渡り展示し、またミニセミナーでは顕微鏡下でがん細胞や区民の皆様ご自身の口腔内細胞を観察していただくコーナーを設置いたしました。本学の病理学ゼミおよび病理検査学ゼミに所属したボランティア希望学生14名がお揃いのTシャツ姿で集結し、2名の教員と共に展示物の説明や顕微鏡下の細胞説明を致しました。ご参加いただいた方には自分の頬粘膜細胞で標本を作製し、顕微鏡下で400倍にして観察していただきましたが、3時間に38名の方のご参加をいただき、感動の声をお聞きすることができました。

臨床検査技師の仕事範囲は組織細胞、血液、尿などの検体系検査、また、超音波（エコー）、心電図、筋電図、脳波、呼吸機能検査などの生理機能系検査と様々でとても広いですが、その1つにがん検診があります。今回、このような機会をいただき協力させていただきましたことは、私たちにとりまして大変勉強になり、やり甲斐を感じる1日となりました。

がん検診による早期発見で救われる命の数は図り知れません。地道な活動により、少しでも多くの方ががん検診の大切さを知っていただき、そして少しでも受診率が上がることを祈っています。



ピンクリボン運動月間における活動について

10月は『ピンクリボン運動月間』です。私たちは中野区長をはじめ区職員の方々と共に、中野駅北口・南口に分かれて『がん検診を受けましょう！』と呼びかけながら、がん検診についての説明書が入ったティッシュ3000個を配布する街頭キャンペーンに参加しました。街頭を通られるみなさんに『がんばって！』『ありがとう！』などの声援をいただきながら、本学のボランティア希望学生34名と教員1名が、ピンクリボンロゴの入ったお揃いのTシャツを着て、区の職員の皆様と一体になって張り切りました。

これらの経験を活かし、地域社会をはじめとした様々な問題点に気づき、考え、そして自分発信でできることを探して行動できる社会人に成長できれば幸せだと思います。